

CASE
40株式会社
スポーツライフクラウド型POSレジ
『スマレジ』

改善分野▼顧客情報の一元管理、レジの利便性向上

導入の決め手▼手頃な導入・維持費用、システムの拡張性、他社システムとの連携

価格▼リテールビジネスプラン

15,400円/月+オプション(レジ2台追加+顧客管理システム)



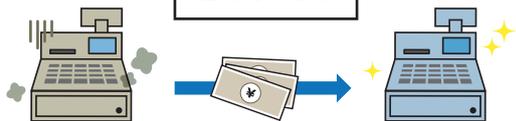
株式会社スポーツライフ

〒761-8084 高松市一宮町908-3

TEL:087-885-7333

HP: <https://www.rsadd.com/>

Before

買い取りのPOSレジのため
パソコン買い替えのたびにPOSレジも更新バラバラで
困る…レジ、顧客カード、コート予約のシステムが
バラバラで、管理しづらいイベントのために
レジが使えないのは不便だなあ…レジを持ち運べないため、
イベントに出店する時は、手動で計算

解決したい!!

課題
1

レジの切り替えにかかる費用と労力を抑えたい

以前のシステムは買い取りのため、パソコンを買い替えるたびにコストがかかり、ソフトの更新にも手間がかかっていた。

課題
2

顧客情報を一つにまとめ、有効活用したい

レジと顧客カードが連携しておらず、管理が大変。カードをスマホに集約して、顧客に合ったアプローチができれば…。

課題
3

イベント出店時もレジを使えるようにしたい

レジの持ち運びができないため、イベント時や移動販売では従業員が手動で計算していて、手間がかかり不便。

高松市一宮町で、硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球などのラケットスポーツに特化した専門店「ラケットショップ アッド」や、スポーツ教室「アッド スポーツフューチャー」、学研教室を運営する株式会社スポーツライフ。バドミントンの元全日本チャンピオンの日下昇さんが高松市中央商店街でラケットスポーツ専門ショップを創業し、1991年に法人化しました。大型店舗の郊外進出を機に現在の場所に移転。体育館の建設に伴いスクール事業を開始し、レッスンのない時間はコートの貸し出しを行っています。

現在は、息子の直人さんが経営を引き継いでいます。「父は新しいシステムを入れるのが好きだった」と、早くからPOSレジを導入していました。直人さんは多店舗展開やイベントの移動販売など、今後の事業展開を考え、3年前から安価で拡張性の高い「スマレジ」への切り替えを検討していました。ショールームに足を運んで実際に体験し、使いたい機能も充実していること、費用も抑えられることを確認。2023年10月からインボイス制度が始まることもあり、導入を決断しました。

導入後、大きく改善したのが顧客カードの運用。それぞ

After

クラウド型POSレジ スマレジ

できる
こと

- ▶業種・規模に合わせた販売設定
- ▶会員情報を一元管理
- ▶他社のアプリやシステムとの連携
- ▶売上分析など

経営者
comment

ショールームで実際に体験して、操作が簡単で、他社のシステムと連携できる点が気に入りました。インボイス制度が始まる1カ月に導入しましたが、レジの入れ替えもスムーズにできました。

SNSと連携ができ会員登録やコート予約が簡単に



オプション機能で顧客に応じた販促が可能



スマホやタブレットをレジ端末に使用できる



効果を実感!!

経営者
comment

LINEと連携させたことで、顧客カードや購入履歴、コートの予約を一つの画面で確認でき、管理しやすくなりました。セール情報もDM郵送からLINEでの発信に切り替えることで、通信費の削減にもつながっています。

効果
1

LINE公式アカウントの会員登録が大幅増

登録の操作が簡単のため、LINE会員登録が増加。コートの予約もLINE上でスムーズに行え、お客さまの利便性も向上。

効果
2

お客さまのニーズに合わせたサービスを提供

顧客情報の最終来店日や購入履歴から、顧客に合わせたポイントの付与や、セール情報の発信など、より効果的なアプローチが可能に。

効果
3

イベント出店時の売上集計が簡単に

イベントにはスマレジアプリをダウンロードしたiPadを持ち込むだけで、売上集計が簡単に。レジ周りのスペースもすっきり。



代表取締役の日下直人さん



LINEの会員画面(左)とコート予約画面(右)



iPadのレジ端末

これらのシステムで管理していたレジ、顧客カード、コート予約の情報もLINEに統一したことで、専用のアプリをダウンロードする必要がなく、会員登録が簡単になりました。登録された情報は自動的にレジに集約されるため、会員情報や購入履歴を参照しながら、顧客に合わせたポイント付与やセール情報の発信など、より効果的な販促ができるようになりました。コートの予約もスマホから日時と使いたい時間を入力するだけになり、利用者からも好評です。

生涯スポーツとしても注目を集めるラケットスポーツ。国や自治体もスポーツ振興に力を入れている中、同社は「子どもから大人までスポーツを楽しめる環境を充実させたい」と、年間を通してさまざまなスポーツ大会を主催しています。「事業を継続していくには、長期的な投資も必要」と話す直人さん。スポーツのすそ野を広げることが、会社の発展につながると考えています。